

会長就任にあたって



福田和久 日本製鉄（株）代表取締役副社長

この度、第57代日本鉄鋼協会会長に選任されました福田和久です。大変な名誉であると共に、本会の会長職の責任の重さを強く感じています。1915年の設立以来100年以上に渡り、本会は我が国の鉄鋼技術の発展において重要な役割を果たし、それら技術を担う人材の育成にも多大なる貢献をして参りました。私自身も、講演大会等での発表や討論を通じて多くを学び、また触発されることによって大いに鍛えられてきたと思っています。微力ではありますが、会員各位のお力を頂き、伝統ある本会の発展に精一杯努力して参りたいと存じます。

はじめに、元日に発生した「令和6年能登半島地震」につきまして、被害を受けられた方々や、現在も生活に影響を受けている方々に、心よりお見舞い申し上げます。一刻も早く、皆様が元の生活に戻れますようお願いしています。

さて、足元の鉄鋼業を取り巻く環境は、鉄鋼需要の未曾有の厳しさに加え、分断と対立による市場のブロック化を伴った需要のシフト、カーボンニュートラル実現に向けた産業構造の変革が起こりつつあり、変化に対応した技術開発がより一層求められる時代となっています。こうした中、我が国の鉄鋼業は、重要かつ最新の鉄鋼技術と製造現場の拠点を国内に置きながらグローバル展開を図っており、「学理と実業の結合」という基本思想の下に設立された本会は、以前にも増して産学連携を活動の中核として行かなければなりません。多くの工学が融合した総合工学である鉄鋼技術は、製造プロセスにおいてはカーボンニュートラル実現へ向けた挑戦を、そして限らない可能性を秘めた鉄鋼材料の更なる進化を追い求めて、より広い分野でのより深化した融合を目指す必要があります。本会設立の基本思想を承継、進化させ、様々な局面で産学連携を強化して参ります。

本会は、学会部門と生産技術部門の両輪を活動の軸としています。学術部会のフォーラム活動では企業の研究者も加わり、産業界のニーズも背景とした研究が自由に行われ、その中から研究会へと発展、やがて製品や製造技術として実装されるシーズもあります。技術部会・技術検討部会ではニーズの共有と、時には学術部会のシーズ提示の刺激を受け、こちらも研究会へと発展、社会実装へと進んでいきます。一方で、社会イノベーションの進展により、最先端技術に対する要求の高まりが協調領域の縮小を引き起こしており、こうしたシーズ・ニーズの融合が困難になった現状を打開するため、まずは、産と学で大いに議論し、解決の道筋を見出し、産学連携の強化へとつなげていきたいと思っています。

学会としての基本である講演大会の開催、論文誌の発行も重要な活動の一つです。新型コロナウイルス感染拡大防止による制約があった講演大会も以前の開催形態となり、あらためて対面での交流の価値が再認識されました。質の高い、より活発な議論が、産学、研究者・技術者交えて行われる盛況な大会となるには会員各位のより積極的な発表・参加が必要です。欧文誌「ISIJ International」には鉄鋼分野における世界トップレベルの研究論文が掲載されています。これからも、オープンアクセス誌としての国際的プレゼンスと魅力度を更に向上させ、更なる質の向上を図っていききたいと思います。和文誌「鉄と鋼」は、鉄鋼分野の最先端技術情報が日本語で得られるという重要な役割の維持、発展へ向け、掲載内容の更なる充実化等を継続推進して参ります。

ものづくりの技術を支える根幹は、やはり人です。激動の変化の時代に立ち向かう、優れた鉄鋼研究者・技術者が求められています。本会の人材育成施策はその対象が学生から企業の若手・中堅に至るまで広範かつ連続した内容であり、今後、その重要性は増していきます。「鉄鋼工学セミナー および同専科」、「アドバンストセミナー」など企業向け事業、「修士学生向け鉄鋼工学概論セミナー」、「企業経営幹部による大学特別講義」など学生向け事業ともに内容の充実を図っていききたいと思います。加えて、次代を担う若者達へのアプローチも強化して参ります。高校生の知的好奇心をくすぐるような動画教材をはじめ、鉄鋼の“面白さ”を若者に届けられるよう、一般公開を開始した会報「ふえらむ」誌面の充実など広報の工夫含め、育成事業の充実を進めます。いずれも産学連携で取り組むことで大きな成果が期待できると考えています。

未曾有の厳しい環境下において、以上に述べた活動を推進し、日本鉄鋼協会の更なる発展に努めて参りますので、会員各位の多大なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。